

2018年・越冬期調査の報告

この1月7日(日)朝10時～12時の2時間で実施しました「東京および近郊(とうきょう)のオオタカ・ノスリの一斉調査・第1回」には、17か所から報告があり、オオタカ6羽/5か所、ノスリ4羽/2か所、ツミ2羽/2か所、ハイタカ4羽/3か所、トビ6羽/2か所、ハヤブサ1羽/1か所、チョウゲンボウ1羽/1か所が記録されました。

また、1月6日(土)～14日(日)に実施しました「カモを中心とした個体数調査」には25か所から報告がありました。調査された方々、協力いただいた皆様に感謝いたします。今回はオオタカ・ノスリ調査の報告の一部を紹介します。

[研究部]



23区内の緑地にすむオオタカ(真下 弘氏撮影)

興味ある猛禽類の報告紹介 [場所および報告者名は伏せています]

1. JR山手線内の緑地から：調査時間 9時15分～13時30分

オオタカ(成鳥) [出現時刻・状況]

10時31分 1羽：緑地の南側住宅地上空にてドバトの群れ10羽程度を追っていた

10時35分 1羽：緑地の南側住宅地上空を東から西に飛翔

10時41分 1羽：庭園上空をハイタカと絡み合いながら西から東に飛翔

ハイタカ(雄)

9時27分 1羽：ガーデン上空を飛翔

10時41分 1羽：庭園上空をオオタカ成鳥と絡み合いながら西から東に飛翔

12時56分 1羽：緑地中央部の森を掠めるように飛翔して庭園北側の森に突入

ハイタカ(幼鳥)

9時33分 1羽：緑地中央部上空を北から南へ飛び、反転し西方向に飛翔

13時21分 1羽：庭園上空を北西方向から円弧を描くように南西方向に飛翔

ツミ(成鳥雄)

10時55分 1羽：池の奥から南西側に向かって飛翔。途中、池畔のハゼノキにとまっていたシジュウガラを捕食。梅林上空を飛翔して森の中に

※緑地内では昨年12月初旬よりオオタカ成鳥・幼鳥、ハイタカ成鳥・幼鳥、ツミ雄・雌の出現頻度が昨冬・一昨冬に比してかなり高くなっていて、今回の調査結果もそれを裏付けるものとなった。

2. 23区住宅地の公園から：調査時間 9時～12時

オオタカ 成鳥1羽、若鳥1羽確認。成鳥はバードサンクチュアリでキジバトの捕獲を狙ったが失敗。向かいの枝に止まった。若鳥は、観察終了間際に高い梢に止まったが、カラスに追われて飛び去った。成鳥の観察は11時33分ごろ、若鳥は12時ごろであった。

3. 多摩川の川沿いから：調査時間 10時～13時30分

この時間帯で記録した種類・個体数は、オオタカ2羽、ノスリ1羽、ハイタカ2羽、トビ5羽。トビとハイタカ1羽は調査時間内で記録。他は12時30分ごろ。

【調査・協力者】

浅野恵美子、井上裕由、岩崎正義、植田裕子、内田浩一、大石征夫、大日方すみ江、岡本昭男、岡本昭子、加藤 博、川内桂子、川内 博、管野桂子、木澤隆雄、栗林菊夫、小林和子、小林恒勝、小林博美、五月女憲、作間千春、佐藤 敏、佐藤栄美子、佐藤英夫、柴田絵里、篠崎雄彦、清水徹男、瀬戸 敦、傍島玲子、高梨規子、高橋紗季子、高橋 基、高橋嘉明、田久保晴孝、田島基之、玉木雅治、中野清之、中平 工、成井奈緒美、西村眞一、浜田早苗、原田欣典、早川雅晴、福本 健、真下 弘、松村茂生、武藤邦子、村田靖雄、山部直喜、若狭 誠、渡辺昭彦、渡辺昭廣、渡辺恵子、渡辺正樹、吉邨隆資、小金井自然観察会、八王子・日野カワセミ会、武蔵野野鳥の会賀詞交換探鳥会
〔以上53名・3団体、五十音順・敬称略〕



● 3月21日 不忍池Young探鳥会 ＜担当記＞

雪交じりの雨が降る寒い探鳥会。それでも熱心な参加者が10名で傘をさしながらの探鳥に。桜もかなり開花しており雪と野鳥が交差して寒ささえなければ風情のある風景です。不忍池では、ヨシガモが雌雄で陸に上がって休んでおり至近でじっくりと観察できた。またオナガガモ雌の雄化個体が見られ寒いながらも盛り上がった。(石亀 明)
＜観察した鳥＞

ヨシガモ、カルガモ、ハシビロガモ、オナガガモ、キンクロハジロ、カイツブリ、キジバト、カワウ、ゴイサギ、ダイサギ、コサギ、バン、オオバン、ユリカモメ、ウミネコ、カモメ、セグロカモメ、カワセミ、チョウゲンボウ、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、ムクドリ、ツグミ、スズメ、ハクセキレイ、キセキレイ、シメ、アオジ 以上31種

外来種：カワラバト(ドバト)

参加者10名 担当者3名

※ 3月21日の多摩川丸子橋上流探鳥会は、雨天のため中止しました。

● 3月29日 平日・見沼たんぼ探鳥会 ＜担当記＞

ハナモモやレンギョウ、トサミズキ、コブシに満開の桜が重なって、花いっぱい探鳥会でした。芝川調整池ではアシ原の上をチュウヒが低く飛び、この日の目玉ヒレンジャクが水際の灌木に出現。お弁当の時間が遅くなるのを気にしながらしっかり観察しました。午後もたくさんのお花を觀賞しつつ終着地の民家園まで歩きました。解散後は、水路に沿った桜並木をさらに歩いて出発駅まで戻った方が多かったようです。(川沢祥三)

＜観察した鳥＞

キジ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、カイツブリ、カンムリカイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、バン、オオバン、ユリカモメ、チュウヒ、カワセミ、コゲラ、チョウゲンボウ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒバリ、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、ヒレンジャク、ムクドリ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ、ベニマシコ、シメ、ホオジロ、アオジ、オオジュリン 以上44種

外来種：コジュケイ、カワラバト(ドバト)

参加者51名 担当者7名



カワセミ・繁殖状況をお教えてください

研究部では、カワセミの都内での繁殖状況を調べています。場所の公表はしませんので、情報・写真をお寄せください。〔詳しくは11ページをご覧ください〕

4点のカワセミの写真はいずれも今年の営巣地での状況調査時のもの。カメラは双眼鏡感覚で撮れる「高倍率デジカメ」を使用。調査にあたっては繁殖妨害にならないようにご配慮ください!〔カメラについては本誌2月号裏表紙をご覧ください〕
〔川内 博氏撮影〕



成果は**本誌**のほか、**細田工務店・ショールーム**〔JR阿佐ヶ谷駅近く〕でも発表の予定

